

17 新江千代

あらえ・ちよ | 1983年生まれ。東京在住。ロンドン芸術大学ロンドン・カレッジ・オブ・ファッション学士課程修了。人の記憶と不在者との関係性を探り、インスタレーションや映像作品を制作発表している。2020年/2019年 都筑アートプロジェクト。2018年 トロールの森。2017年 個展「水たまりが乾いたあとで」。



今年三十三回忌を迎える父が遺した実家の桜は、11月に伐採を予定している。家族が桜の木を手放すまでの道のりと、故人が向こう岸に辿り着くまでの旅を、一つの物語に紡ぎあげる試み。一年かけて木の糸を撮影し、立体作品と共に構成する。手放すという行為を通して、モノに宿る記憶の形、痛みと再生について考えたい。



21 金子未弥

かねこ・みや | 2017年多摩美術大学大学院美術研究科博士後期課程修了、2018年ART IN THE OFFICE 2018受賞、2017年 Tokyo Midtown Award 2017 グランプリ受賞、人が持つ場所の記憶に関心を抱き、記憶を導き出すプロジェクトを含めて作品として発表を続けている。



U35の展覧会に向けた作品を制作します。2020年に参加した展覧会で、鑑賞者と電話で「特に記憶に残っている場所の話」をしながら一ヶ月間公開制作を行いました。この経験で得られたいくつかのエピソードを元に、インスタレーションを構築します。



18 土屋信子

つちや・のぶこ | シリコン、コットン、鉄、漆喰など、様々な素材や廃材を使い、イマジネーション溢れる独特な世界観を展開、五感またはそれ以上の感覚を刺激する作品を制作。2018年から2021年までR16スタジオにて活動。日産アートアワード2020ファイナリスト。2020年11月28日～現在、Gregor Podner, ベルリンにて個展を開催中。



AIR Spring では、トレードマークともなりつつあるシリコン・エアー作品を始め、大型立体作品への取り組み、作品領域の開拓に力を入れる。R16に次ぐ制作場所も平行して情報収集する。



22 渡辺 篤

わたなべ・あつし | 横浜生まれ/東京藝術大学大学院修了(2009)/横浜文化賞 文化・芸術奨励賞(2020)/「Looking for Another Family」(MMCA, 2020)個展「同じ月を見た日」(R16 studio, 2021)/「ソーシャリー・エンゲイジド・アート支援助成」(川村文化芸術振興財団, 2021)。

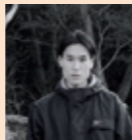


2016年から続けているプロジェクト「あなたの傷を教えてください。」を今回はワークショップとして行い、それを映像作品化する。これは世界各地のクリエイター7人によるオンラインプログラム「At the table」によって発表される予定。その他、美術館や芸術祭などでの展覧会参加の準備も同時進行している。

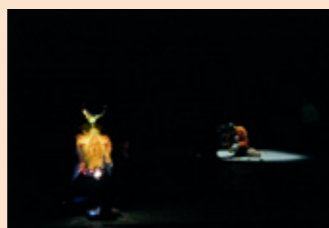


19 敷地理

しきち・おさむ | 1994年日本生まれ。振付家・ダンサー。武蔵野美術大学彫刻学科卒業、東京藝術大学大学院修士課程修了。身体をメディアとして、強い現実感を生むことを主題に作品制作を行う。YDC2020若手振付家のための在日フランス大使館賞受賞。主な作品に「ハッピーアイスクリーム」(YDC2020)、「振動する固まり、ゆるんだ境界」(TPAM2020 Fringe)、「blooming dots」(豊岡演劇祭2020フリンジ/CAF賞2020)、「Juicy」(YDC2021)など。

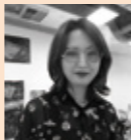


絵画をリビングの壁にかけて生活の中でゆったりと見る様に、パフォーマンスが生活の中の長い時間軸で鑑賞されること、パフォーマンスの所有を考え、まずパフォーマンスを残すものとして変換してみる実験をしてみようと思っています。それらをいま行っている様々な作品のリサーチに並行してやりたいと思います。

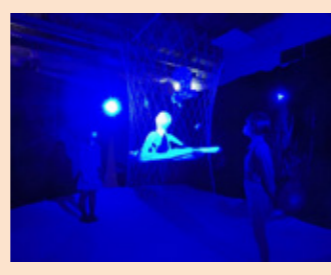


20 秋山夏海

あきやま・なつみ | 1998年生まれ。東京造形大学絵画科2021年3月卒業、2018年10月造形大学オープンキャンパス(学内展)、2020年2月虫・蟲展、2021年1月～3月ZOKEI展(学内展)2021年2月五美大、2021年4月ART×SHISHA。平面、立体、インスタレーション、パフォーマンスによる作品作りをしている。



都市と人間のあり方、関わり方や疑問、また、人間の行動、思考そのものに対する疑問を制作に落としこんでいる。今回のレジデンスではBankARTStationが駅のデッドスペースにあることから、都市のデッドスペースに潜む人間に焦点を当て制作する。中心部分から離れ都市から溶け出す人間をさまざまな素材を用いて表現したい。



BankART AIR 2021 SPRING

OPEN STUDIO

2021.5.28 fri.—5.30 sun. 6.4 fri.—6.6 sun. 11:00—19:00

BankART Station 入場無料

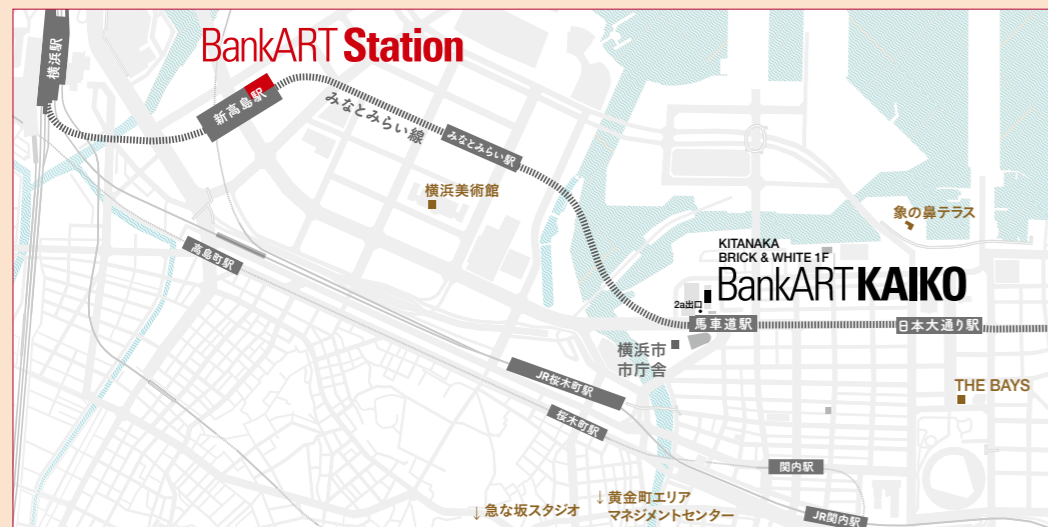
主催:BankART1929 共催:横浜市文化観光局

BankART AIR 2021 SPRING アーティストトーク

全5回、金曜、土曜開催 会場: BankART Station

*ご参加はワンドリンクのオーダーをお願い致します。週末に恒例のアーティストトークを行いたいと思います。皆さまお誘い合わせの上、ご参加下さい。メールにてご予約をお願い致します。(定員30名) info@bankart1929.com

- 第1回 | 4月16日(金) 19:30～21:00
土屋信子/片岡純也+岩竹理恵/窪田久美子/秋山直子
- 第2回 | 4月24日(土) 18:30～20:00
渡辺 篤/関 和明/三枝 聡/葉栗 翠/橋村至星
- 第3回 | 5月7日(金) 18:30～21:00
リン・チャーチル/秋山夏海/金子未弥/新江千代
- 第4回 | 5月21日(金) 19:30～21:00
敷地理/細淵太麻紀/山岡瑞子/ピコ コンドウ/高橋美乃里
- 第5回 | 5月29日(土) 18:30～20:00
照沼晃子+ちやぶダイブ/松本恭吾/渋谷 薫/嶋崎美音



アクセス
 □ BankART Station
 横浜市西区みなとみらい5-1
 みなとみらい線「新高島駅」地下1階

お問い合わせ | BankART1929
 TEL 045-663-2812
 info@bankart1929.com
 www.bankart1929.com



BankART AIR 2021 SPRING オープンスタジオ

会期:2021年5月28日[金]~30日[日] 6月4日[金]~6日[日] 11:00~19:00

会場:BankART Station 入場料:無料

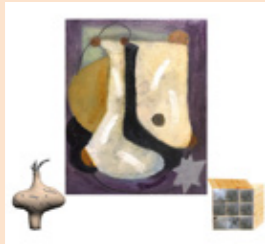
BankART Station では、現在22組のアーティスト達が、4月1日から約2ヶ月間、制作活動をおこなっています。基本的には、制作場所(スタジオ)の公開ですが、4月~5月に制作した成果物も発表します。是非皆様、お気軽にご参加ください。

01 高橋美乃里

たかはし・みのり | 1994年神奈川出身。2016年多摩美術大学絵画学科油画専攻入学。2018年アールト大学(フィンランド)交換留学。2020年多摩美術大学卒業。主な展示に、2018年スクエア・ザ・ダブル Vol.12(アリュウギャラリー、東京)、2018年アミアートウィーク2018(静岡)、2020年 Creative Railway(BankART1929、神奈川)。受賞歴に2020年福沢一郎賞、優秀作品賞、多摩美術大学卒業展。



私ที่ไม่自由に思う世界も、私は非力で対抗できない、大きな声で対抗したくない。「いつでも当たり前前にそばにある物」をこねくり回して、日常を反転することで私は自らの自由を確立したい。自分がずっと住んでいる横浜で制作をすることで、より一層「日常の反転」を意識するきっかけをつかみたい。

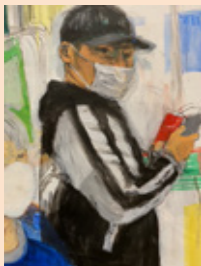


02 橋村至星

はしむら・しせい | '90年代に9年間NYで過ごした後帰国。身近な日常風景に生きる人とそこに潜む違和感等をテーマに絵画作品を制作。Gallery Side2、Gallery Lara Tokyo、Launch Pad Galleryで個展。グループ展国内外多数。都筑アートプロジェクトに2015年から毎回参加。BankART AIR複数回参加。SICF14、リキテックスアートプライズ2014入選。



昨年から続くコロナ禍での日常生活の中で見て感じた身近な風景と人物の絵画の連作を制作予定です。また並行して裁縫の手法を使った作品を構想中です。またオープンスタジオ期間中に「ダンサーを迎えるクロッキー会」を開催したいと思っています。

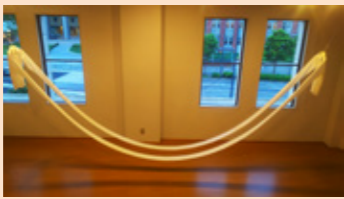


03 窪田久美子

くぼた・くみこ | B-semi schooling system 修了。個展「plastic island / secondhand frontier」with an introduction by Moemi Takano(トキワビル 303-a スタジオ/2019)、「comfortable」(numART/2017)、「butterfly」(Launch Pad Gallery/2016)、「HOLD」(新宿眼科画廊/2010)。グループ展等「BankART Life III」(2011)、「ANTINOMIE」(Gallery Objective Correlative/2003)、「灰塚アースワークプロジェクト」(1996)。



これまで衣服を題材として制作してきたが、引き続き衣服の機能、社会的意味を考察しつつ彫刻として新たな形を探りながら作業を進めたい。また素材、手法にこだわらず美術とは何か、美術作品はいかに成立するかという問いにたち戻って造形の可能性を考え制作したい。

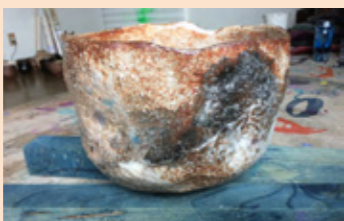


04 リン・チャーチル

リン・チャーチル | 1944年バーミンガム(アラバマ州)で生まれる。ウエルズリー大学(マサチューセッツ)で美術と物理学を、チュレン大学(ニューオリンズ)で美術、実験演劇を学ぶ。70年代、レイク・エリー大学(オハイオ)で非常勤講師。2002年より日本在住。紙と土を素材とする作品制作を行う。また、テコンドーとのコラボレーションでパフォーマンス作品を制作する。



アートは共同作業であり、コミュニケーションだと思う。しかしつねに孤独な冒険だとも思っている。今回は、これまでの自分のスタジオでの仕事を淡々と、またパフォーマンスを行なっていく。具体的には、サイトアクティビティなスードリング、落書き、乞食のポウルの作成、シードフォーム、ジェスチャーなどを行う予定だ。



05 葉栗 翠

はぐり・みどり | 武蔵野美術大学油絵学科卒。現在、中国美術学院修士課程在籍中。鯛いならされる自然をキーワードに平面作品を中心に様々な素材や表現方法で制作している。主な展覧会は、2018、2019、2020年「黄金町バザール」(黄金町エリアマネジメントセンター)、2019年「Koganecho Wanderland」(space 55 / ソウル)、2018年「東アジア文化交流展」(泉州市交通歴史博物館 / 中国泉州)等。



今回のレジデンスでは6月に行われるBUKATSUDOでの展示に向けて平面作品を中心に制作します。最近の「水」が気になっています。水について手を動かしながら考えていきます。個人的な実験として、制作風景の撮影を行って最後レジデンスの記録としてアーカイブを制作したいと思っています。



06 片岡純也+岩竹理恵

かたおか・じゅんや+いわたけ・りえ | 身近にある物を観察してその本来の意味や機能とは離れて、形の特徴を作品化している。近年の個展に「表出する内匠」Kana Kawanishi Gallery/東京(2021)、「二つの心臓の大きな川」アーツ千代田3331/東京(2019)、「Under35」BankART Studio NYK(2017)、グループ展に「MOTアニュアル2020 透明な力」東京都現代美術館(2020)などがある。

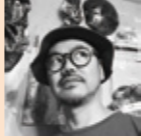


オープンスタジオという発表の仕方が好きだ。まだ作品と呼べないようなプロトタイプ的なものを見てもらうことができるし、途中で引っ込めて手直しすることもできる。今回のBankARTスタジオでは、漠然とある作品のアイデアを形にしていこう。



07 三枝 聡

さえぐさ・さとし | 横浜市出身・東京造形大学造形学部美術学科美術I類卒業、同大学研究課程修了(成田克彦、稲葉治夫に学ぶ)ギャラリーQ、ルナミギャラリー、不二画廊、ギャラリーLARA、ランチパットギャラリー、にて個展。米国ロサンゼルスでのレイドプロジェクト、マークモアギャラリー、トランス美術館、ギャラリーJAUSで、グループ展・2人展。



“Whole Lotta Love of Materials/素材の歌を聴く”私の創作の基本にあるのは“素材”との交信です。素材は“らしく”あるときに、誰かに、何かに、あるいはどこかに、その思いを語ります。それぞれの素材の“らしさ”を作品化することで、恋愛のような優しい関係を創出します。

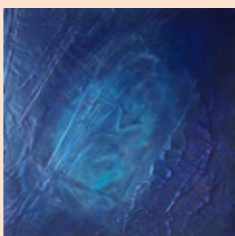


08 ビコ コンドウ

びこ・こんどう | 横浜生まれ。ジュエリー作りをきっかけに独学で作品制作を始め、近年では独自の技法を用いた青い作品を中心に制作。2020年より活動拠点をニューヨークから横浜へ移し新しい環境で再スタート。横浜やニューヨークで個展を開催。



近年の創作活動の中心となっているVoyagingシリーズの制作に加え、作品自体が人から人へと旅をする新しいプロジェクトを始動。個展に向けて作品のテーマをさらに深く掘り下げ、変化を受け入れながらも新しい時代へと人々が進んで行けるようなメッセージ性の高い作品を発信していきたいと思っています。



09 松本恭吾

まつもと・きょうご | 倉敷芸術科学大学大学院修了。日本、ドイツ、アメリカ、オランダ、チェコ、フィンランド、セルビアのアーティストインレジデンスで多くの制作を行い、作品を発表している。倉敷芸術科学大学、岡山理科大学非常勤講師。



私は、現在まで作品を美術分野で制作し主に街、都市に対するリサーチをベースにイタズラを都市空間に仕掛け、場の持つ普段見えない側面を浮かび上がらせてきた。今回のレジデンスでは一転街をテーマにしながらも絵本という形式を使い横浜の郊外空間をモチーフに制作をする。横浜の郊外を使い、サイトスペシフィックな絵本を作るつもりである。



10 細淵太麻紀

ほそぶち・たまき | 多摩美術大学にてグラフィックデザインと写真を学んだ後、1996年より美術・建築ユニット「PHスタジオ」に参加。2004年、BankART1929の創立に関わり以降企画運営全般に携わる。2017年より「現象」共同主宰。主な展覧会に「photopia/scotopia-東京」(TOKAS本郷/2018)等。



写真やカメラを「見る」ことのメタファーと捉え、その既視感と違和感の間を往来する。前回のスタジオで制作した、日常の中にカメラオブスキュラ(ピンホールカメラ)を忍ばせる「Still life - 八百万の神」のシリーズをさらに展開させる。



11 嶋崎美音

しまざき・みお | 1993年横浜生まれ。2014年カリフォルニア州立大学サンマテオ校ビジュアルアンドパフォーマンスアート専攻修了。2015年よりニューヨークに拠点を移し、フランス人写真作家のアシスタントを経て2020より横浜にて写真家として活動。2020年現代美術家協会 第76回現展入選。2021年8月よりドイツ・ベルリンを拠点に活動予定。ありふれた景色やその静寂の中に行む残音や、目には見えないものの声や言葉に寄り添うことで、写真における「音」表現の可能性を追求した作品を制作。



目に見えない音と共存していかなくてはならないこの世の中において、生きるということを再確認する行為として、自身の原点である「横浜」での表現に立ち返ることは一つの転換点となるように感じています。故郷の町「大和町」、またそこで生活する人々の温もりと改めて向き合い、歴史とともに歩み変わりゆく風景や人々の「声」を写真として記録し、未来に向けた作品を紡いでゆけたらと思っています。



12 秋山直子

あきやま・なおこ | 京都生まれ。14~19歳をオランダで過ごす。編集者、デザイナーを経て2009年より写真家・元田敬三氏に師事。2011~2020年黄金町AIR参加。写真を用いた作品を中心に制作している。「黄金町バザール2020」参加。「横浜トリエンナーレ2020」には招聘作家エレナ・ノックスの展示に作品を提供した。日ノ出町の珈琲焙煎所&カフェ「chair COFFEE ROASTERS」スタッフ。



ビジュアル(写真)と味覚(コーヒー)の関係について、さらに考察を重ねている。風景を「味」で表現すること。「味」によって心に景色を描くこと。その結果を、今回は「メニューのない珈琲店」として結実させた。今回はさらに進化させ、写真からイメージした「味」をブレンドや焙煎で作り出すことにも挑戦したい。(協力:chair COFFEE ROASTERS)

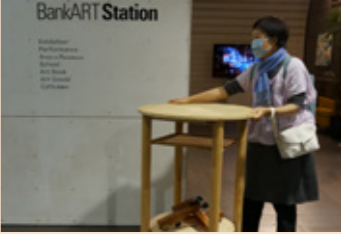


13 照沼晃子とちやぶダイブ

てるぬま・あきことちやぶだいぶ | 2018年11月4名で「ちやぶダイブ / Chabu Dive」を結成。2018年12月の高田馬場ダイブを皮切りに、20の異なる生態系へダイブを展開。拠点を2018年「アーツ千代田 3331」から2019年「100BANCH」へ。2021年春「BankART Station」に漂流。2018年アーツプロジェクトリーダー育成事業「ARTS PROJECT SCHOOL」(主催:一般社団法人コマンドN、文化庁)にて中村政人審査委員特別賞とオーディエンス賞金賞をW受賞。



自然の織り成す循環に対し、人の生活で循環する物と排出されるゴミに眼差しを向けるべく、車輪付きちやぶダイブでまちに出る「ちやぶダイブ」を展開。私たちが織りなす生態系=社会・地域に、元々存在する多様な個性や生物、お互いの存在への気づき、これまで眼差しを向けなかった生態系を拓くトリガーとなるPJです。



14 関 和明

せき・かずあき | 建築史家/建築家、関東学院大学名誉教授。「AIR2021 WINTER @BankART Station」、「AIR2019 AGAIN @ BankART Station」(teamsKYメンバーとして)、「AIR2019@BankART Station」(SHABASメンバーとして)に参加。「Luminous Web」: Future Scape Project 2020@Zou-no-Hana Park(2020/09)、「Welcoming Birds to Zou-no-Hana Park」: Future Scape Project 2019@Zou-no-Hana Park(2019/06)など。



・北海道H町に計画中の(仮称)「きたのり」のなかのまなびや(“das kleine Bauhaus”)の施設:「Book Barn(ライブラリー/ギャラリー/スタジオハウス)」の設計。・同施設のための家具(書棚、デスクほか)のデザインと原寸模型制作。・“das kleine bauhaus”の活動プログラムの立案。



15 渋谷 薫

しぶた・かおる | 北海道の大自然でのびのびと育つ。音楽、自然音のリサーチを元に共感的に絵画へ変換する。これまでにバルセロナ芸術センター Espronceda、エリザベスジョーンズアートセンター、サンタモニカ美術館、ロシア国立現代アートセンターなど世界各地のAIRで制作発表を行っている。The 14th Arte Laguna Prize 特別賞(Arsenal, ヴェネツィア)。



『風』横浜市のステートメントを元に横浜駅〜みなとみらいエリアを歩いてリサーチしました。この体験から、スタジオに響く地下鉄の音と壁面に合わせ、4メートルの絵画を発表します。リサーチメモ “空気振動。風力発電。街の活気。”また、滞在中のオーダーやプライベート作品の作業も公開しています。



16 山岡瑞子

やまおか・みずこ | 東京都出身。2002年 Pratt Institute BFA Painting (NY/USA)修了。交通事故に遭い帰国。08-09年 Egmont Højskolen(Hou/DK)留学し映像制作に出会い、帰国後、映画美術学校ドキュメンタリー科修了。中途障害と生きる者としての視点で表現出来ることを模索中。



留学していた美大卒業後の交通事故で大怪我をし、帰国し、それまでの世界から断絶状態になった。米国時代の自分と繋がりを直せる場を探し続け、ようやく出会えたのがBankART AIRだった。19年前の事故前の作品を展示し、映像を使い、自分の過去と障害を負ってからの日々を想起させる複合的な作品を作ることを目標に制作している。

